

◆ 授業設計のポイント ◆

- ・ コミュニケーションツールとして英語を深く理解させるための工夫
- ・ 思考を深め広げる対話的な言語活動の工夫
- ・ 学習プロセスの構成における見通しと振り返りの充実

外国語（英語）科学習指導案

日 時 令和 2 年 1 月 3 0 日（木） 5 校時
対 象 2 年 2 組 男子 18 名，女子 17 名，計 35 名
指 導 者 教 諭 山 口 優 子
A L T R e x T h o m p s o n

1 単元名 Sunshine English Course 2: Program 10 So Many Countries, So Many Customs.

2 単元について

本単元は、ホームステイでの異文化体験や言語の特性の違いについての対話を通して、異文化や言語について理解を深める内容である。

具体的には、桃子のオーストラリアでのホームステイ体験について話す場面、マイクの日本でのホームステイ体験について話す場面、マイクと桃子の言語に関する体験談で構成されている。

言語材料としては、<more ~ (形容詞) than ...>、<the most ~ (形容詞)>、better, the best が扱われている。比較する表現はコミュニケーションにおいて事実や自分の考えを伝えるために身近な表現であり、他国や他者を知るきっかけにもなる表現でもあることから、実際のコミュニケーションで活用させることが期待できる題材である。

今回の授業を実施するにあたり、生徒の実態を調査するためのアンケートを行った。

【アンケート結果 1】

(令和元年 11 月 26 日実施 対象者 2 年 2 組 男子 17 名 女子 14 名 計 31 名)

1 英語を学習することは必要だと思いますか。また、それはなぜですか。

ア はい (30 名)

- ・ 将来外国人と話す時に必要だから。
- ・ 外国の人とのコミュニケーションツールになるから。
- ・ オリンピックがあるから。
- ・ グローバル化が進んでいるから。
- ・ 将来の幅が広がるから。

イ いいえ (1 名)

- ・ 必要性を感じないから。

2 英語の授業で学習したことを、普段の生活の中で生かすことができますか。それはなぜですか。

ア はい (16 名)

- ・ 外国人から話しかけられたときに少しだけ会話できたから。
- ・ 英語で書かれていることを読めるから。
- ・ ALT と話すことができるから。
- ・ バースデーカードやあいさつを書けるようになったから。
- ・ お店のメニューや音楽のタイトル等簡単なものだったら話せるから。

イ いいえ (15 名)

- ・ いざという時にしゃべれないから。
- ・ 英語を話す機会がないから。
- ・ 身近に外国人がいないから。

3 カナダの人とやり取りをすることになりましたが、どんなことが楽しみですか。(複数回答可)

- ア 海外のことを知ることができること (19名)
- イ グループで協力して、メールを送ること (13名)
- ウ 友達になれること (10名)
- エ 返事がもらえること (9名)
- オ 自分の英語を試すことができること (7名)

4 海外の人とやり取りをするときに、不安に感じていることは何ですか。(自由記述)

- ・ 正しい文法で表現できるか。
- ・ 自分たちの思いがよく伝わっているか。相手が理解してくれるか。
- ・ 相手が何を言っているか聞き取れるかどうか。

【アンケート結果2】

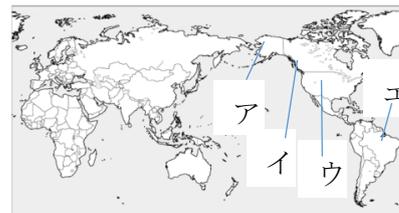
(令和元年10月28日実施 対象者2年2組 男子15名 女子13名 計28名)

1 カナダはどこですか。右図のア～エから1つ選びなさい。

ア 1名 イ 22名 ウ 4名 エ 1名

2 カナダのイメージをいくつでも挙げてください。

メイプルシロップ、カエデの木、ハチミツ、カラフルな家、おしゃれな街並み、スケート、寒い、イヌイット、カリブー、イグルー、寒帯、雪、トナカイ、アイスホッケー、オーロラ、面積が大きい、大都市、ピザ、家が広い、顔が白い人や鼻が高い、楽しい、明るそう、自由、おしゃれ、バンクーバー



本学級の生徒は明るく、ペアやグループで行う言語活動にも意欲的に取り組んでいる。アンケート結果によると、多くの生徒が英語を学習することの必要性を感じている一方で、英語を話す機会がなかなかない等の理由から、英語の授業で学習したことを生かすことができていると感じている生徒もいる。

また、カナダの同年代の生徒とのやり取りをするにあたり、「海外のことを知ることができる、友達になれる」こと等に期待を抱いている生徒も多くいる。しかし、「自分たちの思いが伝わるか、文章が合っているか」等の不安を持っている生徒も多いことが分かる。さらに、カナダについての知識を問いてみたが、国の位置や文化等理解が深まっていない部分が多いことも分かった。

英語の学習の必要性は感じているが、学習したことを普段の生活の中で生かすことができていると考えている生徒は少ないという実態から、指導に当たっては教室で学んだ英語を普段の生活でも生かす機会を設定し、その達成感を味わわせるような授業を展開したい。

具体的には、前単元で行った、お互いの学校についてのビデオプロジェクトを踏まえて、今回は分かったことをメールで報告させることとした。カナダのオンタリオに住む同年代の生徒達からの学校紹介ビデオから日本とカナダの学校の違いを把握させ、ALTの出身国との違いも触れさせながら、収集した情報をメールで送り、お互いに共有させる。疑問に思ったことについては質問させ、今後もカナダの生徒とのメール交換を続けることを予定している。話すのが苦手だという生徒も、ペアやグループでの協働的な学びを通して、間違いを恐れずに意欲的に相手に意見を述べたり、相手の話を聞いたりする態度を育み、他者に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成できると考える。

3 本単元の目標

- (1) more, the most, better, the best を用いた比較の文の形・意味・用法について理解するとともに、カナダとのビデオやメールのやり取りを通して、カナダと日本の類似点や相違点について理解している。

【知識及び技能】

- (2) カナダの学校について知り、日本の学校との違いを伝えるために、通学方法や教室の様子など具体的な情報を聞き取ったり、比較して分かったことを相手に分かりやすいように整理したりして、8文以上

のまとまりのあるメール文を書いたりすることができる。

【思考力、判断力、表現力】

(3) 間違いを恐れず意欲的にグループ活動に参加し、既習事項や本単元で学習する文構造や文法事項を用いて、カナダの生徒に送るメール文を作成しようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の指導計画（全8時間）

Large Task: カナダの生徒に日本とカナダの学校の違いについて伝えよう				
過程	時	○Small Task ◎Large Task 学習課題と主な学習内容	汎用的 資質・能力	Large Task との関連
課題の把握・見直し	第1時	○ これからの学習の見通しを立てよう ・ 単元のスキーマ形成 ・ Large Task の設定	課題 発見力 レベル3	・ メール構成について考える。
	第2時	○ Rini が通っていた学校と伊敷中の違いを表現しよう ・ more, the most, better, the best を用いた形・意味・用法の理解と表現練習	情報 活用力 レベル3	・ ALT が通っていた学校について知り、伊敷中との違いを表現する。
課題の追及	第3時 (本時)	○ 日本とカナダのどちらの学校が好きか英語で表現しよう ・ ビデオの視聴と内容理解 ・ カナダの学校との違いについて表現	協働 する力 レベル2	・ カナダの学校について more, the most, better, the best 等を使って2文以上加える。
	第4時	○ 桃子はなぜこんな表情をしているのだろう ・ Section 1 の新出単語、及び内容理解、本文の音読練習	論理的 思考力 レベル3	・ メール内容を見直したり、質問の答えを読んだりして再構成する。
	第5時	○ マイクはなぜこんな表情をしているのだろう ・ Section 2 の新出単語、及び内容理解、本文の音読練習	論理的 思考力 レベル3	・ メール内容を見直したり、質問の答えを読んだりして再構成する。
	第6時	○ マイクと桃子が戸惑ったのはなぜだろう ・ Section 3 の新出単語、及び内容理解、本文の音読練習	論理的 思考力 レベル3	・ メール内容を見直したり、質問の答えを読んだりして再構成する。
課題の解決	第7時	◎ 日本とカナダの違いについて伝えよう ・ グループ発表	メタ 認知 レベル3	・ 自己評価および他己評価
	第8時	◎ 単元のまとめをしよう ・ 単元テスト等	課題 発見力 レベル3	

5 本単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1 more, the most, better, the best を用いた比較の形・意味・用法を理解し、使うことができる。 2 カナダと日本の学校の類似点や相違点について知っている。	1 カナダの学校について知るために、話したり書かれたりしている内容を適切に理解することができる。 2 相手に分かりやすいように情報を整理し、取捨選択することができる。 3 新出表現等を用いて、日本とカナダのどちらの学校が好きか、8文以上のまとまりのあるメール文を書くことができる。	1 間違いを恐れず、意欲的にグループ内で意見を話したり、友人の話の聞いたりしている。 2 新出事項等を用いて、カナダの生徒にメール文を作成する活動に積極的に参加している。

6 本時の実際 (3/8)

(1) 題材 PROGRAM 10 So Many Countries, So Many Customs.

(2) 本時の目標

ア more, the most, better, the best を用いて、日本とカナダの文化を比較する表現の形・意味・用法を理解している。【知識及び技能】

イ ビデオを視聴したり友人の話を聞いたりしてその内容を適切に理解し、日本とカナダの学校の違いを踏まえてどちらが好きか、根拠を含めて書くことができる。【思考力、判断力、表現力等】

ウ 間違いを恐れず意欲的にグループ内で意見を話したり、友人の話を聞いたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 授業設計上の工夫

ア コミュニケーションツールとして英語を深く理解させるための工夫 研究の視点1

本單元において「深い理解」に至った生徒の姿を『カナダと日本の学校との違いを理解し、どちらの学校スタイルが好きかについて自分の意見を他者に分かりやすく伝えることができる生徒』とした。

本時では、まず帯学習の後、ALT の出身国の学校についての Small Talk で課題発見させながら「気付き」を促す。そして新出表現に慣れさせた後、カナダの学校紹介ビデオを視聴し、日本とカナダの学校の違いについてグループで話し合わせる。その後、本時で学習した比較表現を使って、どちらの学校スタイルが自分の好みか、英語で表現させ、新出表現の使用場面や方法を「納得」させる。

終末では本時を振り返り、今後の学習に向けての「意志」を確認しながら、リフレクションシートに記入させる。こうした工夫により、生徒は魅力的な目標に向かって意欲的に学習に取り組むことができ、コミュニケーションツールとして英語を深く理解することができると考えた。

イ 思考を広げ深める対話的な言語活動の工夫 研究の視点2

本時においては、Small Talk の場面で、ALT がニュージーランドの学校についての話をする。生徒に話の概要を理解させ、その後の質疑応答を通して、生徒の異文化理解に関する思考を広げるとともに学習内容への知的好奇心を高めていきたい。

また、Activity の場面でカナダからの学校紹介のビデオを視聴させ、本時の Target Sentence を活用したコミュニケーション活動へとつなげることとした。ビデオの内容について、グループで理解を深め、理由や根拠を明確にさせながら自分の好みについて表現させる。

ウ 学習プロセスの構成における見通しと振り返りの充実 研究の視点3

単元を通して、どんなことを学習するのかを理解したり、そして何が分かったか、何ができるようになったかを生徒自身が把握したりしやすいように、リフレクションシートを活用している。また、できたことだけでなく、さらに学びを深めるためにどうしたらよいかについても自分の言葉で記述させ、それを共有することで、自己の学びの見通しをもつことができると考える。

(4) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

協働する力 レベル2 「互いの考えの共通点や相違点を見だしつつ、話し合うことができる」

【生徒の姿】

カナダの学校についてのビデオを視聴し、そこから得られた情報を英語で共有し、どちらの学校が好きか表現し合う。

【手立て】

- ・ メモしたことをもとに、思考ツールを使って共通点や相違点を見いださせる。
- ・ リーダーを small teacher として、グループ内の話し合いを円滑にさせる。

(5) 展開

時間 (分)	学習過程 主な学習活動	J T E の支援	A L T の支援	指導上の留意点 ※評価 ・ 留意点
1' 4'	1 Greetings 日常会話を含んだあいさつをする。 2 Warm-up 生徒同士対話練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と元気よくあいさつをする。 対話活動をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と元気よくあいさつをする。 生徒の様子を観察しながら、称賛やアドバイスをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学習の雰囲気を作るために、元気よくあいさつさせる。 対話のポイントをおさえさせ、積極的に取り組ませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 5 questions No.1: How are you? No.2: How's the weather today? No.3: What day is it today? No.4: What's the date today? No.5: Which do you like better, A or B? </div>				
4'	3 Small Talk ALT の学生の頃の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機付けをする発問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の頃についての短いスピーチをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教師のインタラクションによって概要をつかませ、異文化理解に対する思考を広げさせる。視点2
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【気付き】 ・ ニュージーランドと日本では全然違うなあ。カナダはどうだろう？ ・ ペン図を使えば違いを整理できるなあ。視点1 </div>				
3'	4 Today's Task 本時の学習目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 目標を掲示し、生徒と確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 意図的に interaction を図りながら、主体的な学習になるよう提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 日本とカナダのどちらの学校が好きか英語で表現しよう </div>				
8'	5 Target Sentence 基本文を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真を見せながら、生徒が適切に表現しているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音のポイントをおさえさせる。 正しい発音を確認させるため、リピートさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> パターンプラクティスからより自己表現に近い活動になるよう、絵や写真を活用する。
18'	6 Activity カナダの学校紹介ビデオを視聴し、思考ツールを使って類似点や相違点をグループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら、助言やアドバイスを加える。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら、助言やアドバイスを加え、会話を楽しませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が主体的に活動できるように、メモを取らせながらビデオを視聴させ、リーダーを中心に類似点や相違点を話し合わせる。 Talking Sheet を活用しながら ALT に質問させ、話し合いを進めさせる。視点2
5'	7 Writing 日本とカナダのどちらの学校が好きか英語で表現する。	<ul style="list-style-type: none"> 個人で自分の好みについて根拠を明確にしながら書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら、助言やアドバイスをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出表現を用いて、根拠をもとに2文以上の英文を書かせる。 ※ カナダの生徒に分かりやすいように根拠を含めて書くことができたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【納得】 ・ 今日学んだことを使えば、根拠を示しながら日本の学校スタイルの方が好きだということがカナダの生徒にも伝えられそうだ。視点1 </div>				
3'	8 Consolidation 本時のポイントを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を整理させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音や抑揚等の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書を使って、本時の内容を振り返り、深めさせる。
3'	9 Reflection 自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> 目標に対する自己評価をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら、本時の活動について振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> リフレクションシートで自己評価させる。視点3
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【意志】 ・ 日本のよさも伝えながら、カナダとの違いを伝えたいなあ。視点1 </div>				
1'	10 Assignment 家庭学習の内容を確認し、今後の活動の見通しを持つ。 11 Greetings 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> Large Task に迫るための課題を設定する。 次時への学習意欲を喚起するような、本時の感想を一言述べ、終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時への学習意欲を喚起するような、本時の感想を一言述べ、終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習が Large Task にスムーズにつながるよう確認する。

(6) 評価

ア more, the most, better, the best を用いて、日本とカナダの文化を比較する表現の形・意味・用法を理解することができたか。【知識・技能】

イ ビデオを視聴したり友人の話の聞いたりしてその内容を適切に理解し、日本とカナダの学校の違いを踏まえてどちらが好きか、根拠を含めて書くことができたか。【思考・判断・表現】

ウ 間違いを恐れず意欲的にグループ内で意見を話したり、友人の話の聞いたりしていたか。

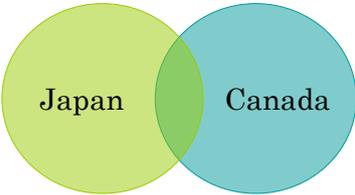
【主体的に学習に取り組む態度】

【板書計画】

Sunny, Thursday, January 30th
TASK

日本とカナダのどちらの学校が好きか英語で表現しよう

A is **more popular** than B.
C is **the most popular** in the world.
I like A **better than** B.
I like C **the best**.
I like A **as much as** B.



+1 Which do you like better, A or B?